

編集後記

ナノメディスンから情報工学、ロボティクスまで研究分野が多様なら文体も多様。教員のキャラクターが様々な、機能デザイン工学科の多様性をお楽しみいただけたでしょうか？ 小職自身はこれまで医工連携の研究を多く進めてきたが、なんせまずは言葉が通じない。それは何も医療だけでなく、薬学と材料学ですら「溶ける」の意味が違う。これは実際に薬学系の博士論文で起きた言葉が通じないトラブルだが、審査員の半分が薬学、半分が材料学の審査でどうも話がかみ合わないと思ったら、材料学では1つの相をなす（つまり全体が均一な1つの液相になること）を「溶ける」というのに対し、薬学では固体である粉末が液体に沈まずに「分散している」状態（つまり2相混合状態）を「溶ける」という。議論がかみ合わない理由はそこにあったのだ。薬学と材料という近い分野でこんなことが起きるので、ましてや機能デザイン工学科のような多様性のつぼでは、もはや「違いを楽しむ」ことができるかどうか勝負だ。多様性社会の発展のカギは、お互いの違いを楽しむこと。ワクワクしながら新しい工学を創出する過程で、これまで混ざらなかったものが混ざり、「溶け」あい、革新的な工学を生み出すことを大いに期待されたい。

言葉が違う、ということはすなわち想念や「見ている世界」が違うことを意味する。だからこそこの多様性文化は、どっぷりとつかっている自分の専門の「常識」という束縛から脱却し、新しいアイデアにたどり着くチャンスに満ちている。

あるデザインの専門家に、デザインの手法で最も大事なことは「視座の転換」であると教えてもらったことがある。われわれ研究者は深い井戸の底にいる「井の中の蛙」。（「井の中の蛙大海を知らず」というオリジナルに加えて、「されど天の深さを知る」という粋な続きをその後誰かがつけたことはさておき、）われわれ研究者は、寛容に他者の「視座」を受け入れることによってこそ、大海で世界と混ざり合い、新たなパラダイムを拓くことができるのではないだろうか。

巻頭に書いたように我々のチャレンジが実を結ぶのは、数十年先の話。長い目でやんちゃなこの学科を見守っていただきたい。

〔曾我 公平：先進工学部〕

次号予告

特集：理科大の航空宇宙工学

—創域理工学部 機械航空宇宙工学科—

- 機械航空宇宙工学科への改称
- 高速飛行の壁について考える
- スペースプレーン
- 航空機翼回りの流れ
- 航空宇宙用先進複合材料
- 宇宙環境利用における熱流体工学

編集委員会 編集委員

渡辺 一之	名誉教授
松田 学則	理学部第一部 応用化学科
小谷 佳子	理学部第二部 数学科
西尾太郎	理学部第二部 物理学科
橋詰 峰雄	工学部 工業化学科
藤沢 匡哉	工学部 情報工学科
原田 陽介	薬学部 生命創薬科学科
早瀬 仁則	創域理工学部 機械航空宇宙工学科
塚本 良道	創域理工学部 社会基盤工学科
増田 信之	先進工学部 電子システム工学科
梅澤 正史	経営学部 ビジネスエコノミクス学科
佐藤 憲一	教養教育研究院 野田キャンパス教養部



北海道・長万部キャンパスの雪景色

SCIENCE 通巻 445 号
FORUM 科学フォーラム (創刊 1984 年 7 月)

2025 年 2 月発行 / 第 42 巻 1 号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 渡辺 一之 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL : 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、本学広報課をお願いします。

TEL : 03-5228-8107, FAX : 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当: 亀山 亜土, 坂口 奈織美)

e-mail : henshu@admin.tus.ac.jp

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載